

はじめてのレポート

～ルールを知れば、らくらく書ける～

豆知識7では、論文・レポート・演習資料作成のための10のステップ（中～上級）を紹介しました。豆知識9では、入学して初めてレポートを書く人を対象に“らくらくレポート作成法”を紹介します。

1: 作文とはちがう“レポート”って？

作文は、自分が思うがまま、感じたままに、特別な裏づけがなく書いてもOK。レポートや論文では、自分の主張を裏づける信頼性のある証拠が求められます。したがって、レポート・論文を書くときには、下準備が必要です。

下準備とは

講義ノートや課題図書を「読む」、内容を「理解する」、文献や資料を「調べる」ことなど。

| | 作文 | レポート | 論文 |
|--------|----|------|----|
| 感想・意見 | ○ | ○ | ○ |
| 調べる・証拠 | △ | ○ | ○ |
| 独自性 | × | △ | ○ |



なんでレポートを書くの？

レポートを書くことは、自分の考えを明確に伝える力や思考を鍛えることにつながります。また、レポートには、提出期限や字数の制限があるため、どのようにすすめていくかという段取りと出来上がりまでの見通し、今回のレポートはここまでと見切りをつけ、気持ちを切り替えていく力がつきます。

2: ルールを理解すれば、らくらく書ける

最初は、難しそう、大変そうと思うかもしれませんが、レポートにはそれぞれ型があります。まずは、課題内容をよく読み、何が要求されているか理解しましょう。

レポートの型を見極めることが大事です。

型を見極めたら、定型表現を用いたフォーマットに、穴埋めするように書いていけば、自分の考えがまとまっていき、レポートを仕上げることができます。

書くことと考えることを繰り返し行うことで、自分で考えて書く力がついていきます。



| | |
|-----|---|
| 説明型 | 講義やテキストの内容を理解したかどうかを確認するために、課題にしたがって、理解した内容を説明していくものです。講義やテキストの内容以外にも、「ブックレポート」(図書の紹介)や、事柄について調べる「調べ学習レポート」もあります。 |
| 報告型 | 介護や調理実習の報告、保育や教育実習報告などがあります。それぞれ様式が決まっていますので、それに合わせて書きます。 |
| 実証型 | 与えられたテーマに基づいて、実験(医療・看護系、心理学系)やアンケート調査を行い、その結果に基づき証明していきます。 |
| 論証型 | 与えられたテーマもしくは、自分で設定したテーマをもとに、資料を調べ、根拠に基づき、自分の主張を論理的に組み立てていきます。(卒論) |

好奇心旺盛な
あらいぐま博士



あらいぐま博士の豆知識シリーズ 9

3: まずはこの本の第1章から第3章を

まずは、2でも引用していますが、次の本を読んでみましょう。

井下 千以子著 『思考を鍛えるレポート・論文作成法』 第2版
慶応義塾大学出版会 2014年3月

この本は、身近な用例を用いた解説や大切なポイントをわかりやすく図解しているので、理解しやすくなっています。

まずは、これだけ。

- ① 第1章から第3章までを繰り返し読んで、手順を理解。
- ② レポートが出たら、早速実践。(レポートの型を見極め、フォーマットを使い執筆。)

慣れてきたら他の章も読んでみて、レベルアップを目指そう。

この本は、図書館にもあるので、手に取ってみよう。(第3閲覧室とラーニング・commons 816.5/I 56にあるよ)

自分に合うなと思ったら、比較的安価な本なので、購入して線を引いたり、書き込みをしたり、自分の1冊を作ろう。

4: レポート・論文の書き方はほかにも



3の本が自分に合わなくても、心配しないで。レポート・論文の書き方について書かれた本は、たくさんあります。

図書館の3階閲覧室やラーニング・commonsの816.5のところにあるので、まずは行ってみよう。

大切なのは、いろいろなものをたくさん見すぎて混乱しないこと、自分に合う1冊を見つけて、じっくり読んで、確実に書き方を身に付けることです。

5: 報告書や企画書を書ける社会人になる

なんだか型とかルールとかいろいろあって、「レポートとか面倒くさい!」「書けなくても困らないもん。」と思うかもしれません。

社会人になると、報告書や企画書、提案書は毎日のように書くようになります。思いつくまま書けばよいものでもありません。また、時間をかけて完璧に仕上げ提出すればよいわけではありません。期限を守り、仕上げ提出することが大切になります。

その時に、自分の考えを明確に伝える力や自分の主張を裏づける信頼性のある証拠を用いて、文書を書く力、思考する力、見通す力、見切りをつける力が必要となります。

こういった文書を書く基礎がレポートです。スラスラ書けるようになるためには、ちょっとした努力が必要になりますが、そんなに大変なことではありません。社会人になってから身につけるのは、大変です。

文教に在学している間に、たくさんレポートを書いて”書ける社会人”になろう。



参考文献 井下 千以子著 『思考を鍛えるレポート・論文作成法』 第2版 慶応義塾大学出版会 2014年3月